



市民の声を市政に反映

# 杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行  
**818号** 2020年8月11日  
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8  
 Tel・Fax : 870-0335  
 携帯 : 090-5587-7693  
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

苦境にあえぐ経営への支援

B

# エスカード、シャトーへの影響

## 6月定例会一般質問 ④-B

杉森議員は6月8日、牛久市議会6月定例会で、新型コロナウイルス感染症対策について質問しました。今号はその中で、④「苦境にあえぐ経営への支援」のBを掲載します。なお、一般質問では、回答時間がなくなったために、**実際の質問と回答は前号で終了**しましたが、参考までに、以下に質問と回答の予定原稿を掲載いたします。

### 出店、オープン等に遅れ

【杉森議員の質問予定原稿】次に、コロナ禍がエスカードやシャトーなどの事業計画にどのような影響をしているのか、そしてどのような対策を立てているのか質問します。

【執行部の回答予定原稿】エスカード牛久ビルについては、当初、ゴールデンウィーク前のリニューアルオープンを目指し、テナント誘致、リニューアル工事、開店調整等を進めてきましたが、4月16日に、全国都道府県に発令された緊急事態宣言に伴い、リニューアルオープンの時期を先送りしたほか、テナントの誘致・出

(2頁に続く)



池田町のワイン城

## 十勝ワインの歩み

### マイナスからのスタート

杉森議員が幹事長を務める会派市民クラブは7月30日、有名な十勝ワインを開発した北海道池田町を視察した。

十勝ワインの生みの親＝丸谷金保町長は、1919年生まれ、42年に明治大学を卒業。在学中には、小林與三次、村山富市など幅広い人脈を築き、後のワインの販路拡大にも生かされた。十勝日日新聞の編集長を務める傍ら農民運動に携わり、

57年に37歳の若さで**日本社会党の町長**として初当選した。しかし、1952年第一次十勝沖地震、53～54年冷害・凶作、**56年赤字再建団体の指定**など、まさにマイナスからのスタートだった。丸谷町長は十勝地方の山ブドウに着目し、「冬の厳しい池田だが、山野に育つならブドウ栽培ができるはず、農業所得のアップにつながり、町内に多い未利用の傾斜地も活用できる」と考えた。そしてブドウ愛好会の結成、新農村建設5カ年計画策定、研究所設立、町職員をドイツへ栽培・醸造の研修派遣、土壌に適した耕作法、独自品種開発などの努力を重ね、ついに辛口志向のワイン造りに成功した。

市民クラブ池田町視察

エスカード牛久がリニューアル



**(1頁より続く)**

店面においては、一部飲食関連事業者や、屋内遊技場等を運営する、子育て関連事業者において、既存店舗の減益や、外出自粛等が要請されている状況下での新規出店を懸念し、エスカード牛久ビルでの出店を再検討したい旨の申し入れ等がなされています。

また、エスカード牛久ビルの既存店においても、現在は既に営業再開をしていますが、ポポラママや、ゴールドジムをはじめ、一部店舗において休業の措置がとられたところです。

次に、牛久シャトーについては、当初、飲食・物販施設において、4月中旬でのリニューアルオープンを目指し、取り組んでいましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、緊急事態宣言の自粛要請を考慮し、エスカード牛久ビルと同様、リニューアルオープンの時期を先送りしたところです。

**6月に両施設オープン**

以上のとおり、両施設の再生への取組に対しては、大きな影響を受けたわけですが、こうした厳しい状況下にあつて、エスカード牛久ビルの2階フロアについては、先日、6月5日にランドオープンを迎え、牛久シャトーは6月20日での一部飲食・物販施設のオープンの目途をつけることができたということは、厳しい状況下において、大きな前進であると認識しております。

今回のコロナ禍により、政府からは「新しい生活様式」として、密閉・密集・密接の「3つの密」をさけること、外出を自粛し「人との接触を減らす」等の感染防止対策が示され、特に、買い物での「通販の利用」や、食事での「デリバリー利用」の提案がなされています。

これを機に今後、対面型の消費スタイルは縮小傾向となることも考えられ、消費動向等に注視しながら、両施設の再生・復活に向けた取り組みを、着実に進めていきたい。

**市独自施策の実施・公表不足**

**【杉森議員の質問予定原稿】**私は市民から、コロナ禍が市民生活と経済活動にこれほど深刻な打撃となっているのに、牛久市はどのような支援をしているのか、市の広報やホームページを

見ても、**市民に対する支援の手が見えない、感じられない**と言われます。

牛久市民の最初の患者が確認されたのが3月24日、全国的な緊急事態宣言が出されたのは4月7日です。**5月29日の市長メッセージ**では、市の独自施策を「**精査しています**」と述べていますが、「**今頃精査か**」と、市民の評判は良くありません。他市では4月段階で支援策を施行しています。**支援策は素早くきめ細やかな配慮が必要**です。また、財源も国の地方創生臨時交付金等を活用するのは良いとしても、それを待っているようにも見えます。この緊急時には、**財政調整基金等、自腹を切る覚悟も必要**ではないでしょうか。

そして、この緊急時には、市の広報やホームページは、支援の手がもっと分かりやすく具体的に、そして早く更新するべきではないでしょうか。**支援策一覧などは色が薄く見にくい、せっかく実施している市の独自支援策もほとんど分かりません。**市の考え方を聞きます。

**【執行部の回答予定原稿】**市のホームページでは、市民の利便性を考慮し、正確な情報をタイムリーに提供するため、各業務を担当している主管課が直接情報発信を行っていますが、トップページの構成は広報政策課がカテゴリごとに分類し、スムーズにページ遷移するよう設定をしています。

新型コロナウイルス感染症情報に関しては、市長メッセージを始め、市内の感染者発生情報イベントの延期や中止に関する情報、市内小中義務教育学校の臨時休業等に関する情報、市内の公共施設の利用制限など、様々な情報を掲載し、更にかっぱメールやSNS等で発信してきました。

特に、市民の皆さまや事業者の皆さまが今、必要としている国又は県、市の支援に関しては一覧表を作成し、ストレスなく検索できる構成としました。

また、支援策ごとにリンクの設定をすることで、各支援のホームページに遷移し、詳細が閲覧できるよう構成しています。

今後、各種支援の一覧は、国や県の制度内容に追加や変更が生じた場合や、市の支援策の実施に伴い、随時最新情報へ編集を行っていきます。

**市民に対する支援の手が見えない・感じられない**